

## 第8回 小中一貫校準備会議

### 議事録 要旨

1. 開催日時 平成27年9月30日(水) 19:00~21:00

2. 開催場所 生駒北小学校多目的室

3. 参加者 小柳和喜雄(奈良教育大学教職大学院教授)  
向井一(保護者代表) 早野琢雄(保護者代表)  
西井清司(自治会代表) 有山喜八郎(自治会代表)  
小中一弘(生駒北中学校長) 前田香織(生駒北小学校教頭)  
松島誠周(教職員代表) 阿部由貴子(教職員代表)

4. 開会あいさつ

5. 参加者紹介

事務局:・本日、生駒北小学校、山本校長と上谷が修学旅行引率のため、前田教頭と阿部が出席します。

6. 学校の通称名について

座長:・本日は、「学校通称名について」を中心に審議を進める。まずは学校のほうからアンケート結果の説明をいただきたい。

参加者:・中学校では全体の応募が小学校や自治会と重なったため少し少なかった。そんな中で、生徒の方は「生駒北小中学校」が一番多い。しかし「高山〇〇」という名称もある。「高山」という地名を入れた名称が多いということは、地域に親しみを感じていることがわかる。

・教員は「生駒北小中学校」というのがほとんどであった。保護者は「高山学園」「生駒北小中学校」、「高山小中学校」、「高山」「生駒北」というのが多い。おもしろいところでは、「バンブー学園」という名称があった。

参加者:・小学校では、児童は応募が非常に多く、関心を持てることがわかった。しかし意見が割れている。校名の上の部分につける言葉は「生駒北」が約40%、「高山」が30%強あった。また、校名の下の部分に「小中学校」にしたい意見が3分の1ほどある。「学園」にしたい意見が2割強あった。

参加者:・中学校長から説明があったので私からの説明は割愛させていただく。

参加者:・小学校育友会ですが、世帯数146に対して応募数17という、夏休みを挟んだ

せいか、少なかった感じがする。名称については見てもらったとおり。

参加者：・8自治会より。1626配布いただき、応募件数が187点。「生駒北」、「高山」という現在の地理的な名前が多い。明治7年から140年の歴史がある。竹を題材とした伝統工芸をあげている新しい名前が2番目に挙げられる。3番目は新しい学校なので新しい名前をつけるという意見。自治会としては2番目の140年の歴史、「北倭」という歴史的名称を求める声があった。

座長：・ひととおり報告してもらったが質問、意見はないか。次に審議していく手順を考えていきたい。最終的には市が判断するが、どのように候補を市に渡すのかを考えていきたい。

参加者：・歴史のある場所。「倭」、「高山」という名前を残してほしい。

参加者：・データで見ると、生駒北小中学校という名称が多いが、いくつか絞り込んでいく。絞り込むことは難しいが、いくつか候補を挙げたほうがよい。その中で地域名の入ったものを大事にほしい。

参加者：・「生駒北」、「高山」、「北倭」、に「小中学校」、「学園」、「一貫校」とつけていくタイプと、子ども達がどのように育っていくのかを喚起させるタイプ、例えば「若竹」や「竹」「桜」などというタイプに分かれると思う。

参加者：・卒業生として母校の名前が残ってほしい。全く新しいものではなく、「生駒北小中学校」という、人々が学校へ顔を出しやすいものがある。「北」「小」は低学年の漢字で低学年のうちから漢字で書けるということは素晴らしいことで、「生駒北小中学校」がいい。

参加者：・140年の歴史もあるが、私は「創生高山小中学校」に1票入れた。古い歴史はあるが、小中学校を一貫校として進めていくのであれば、これからの高山を担っていく、そういうところから考えた名前。「北倭」「高山」にこだわらなくてもいいのではないかと。将来を見越して新しい小中学校を作っていってほしい。

参加者：・どれといわれても、それぞれに思いがこもっているもので、地域の方々に親しんでもらえるものがよい。

参加者：・どの名称にも思いがこもっている。地元において長い間学校を見守ってくださった方々のお考えを大事にしたい。

座長：・候補を挙げる場合に、1校なのか複数校なのかどちらにするか。

参加者：・複数でいい。

参加者：・複数で地域性の持ったものを2つずつ。望みを託したものを2つずつで選出してはどうか。

座長：・地域歴史、これから向かう方向性に入ったもの、現在の名前を生かしていく、「小中学校」をつけるか、「学園」にするか、「一貫校」にするか。複数候補でいくならば、いくつ出すのか。民意を反映するなら数も大事。数の多いものは残す。少数だが大事にしたいものも残すというところで、意見を伺いたい。

参加者：・「倭」にこだわっているが、「高山」と合わせるとかなりの数になる。「倭」と

「高山」を合わせれば、「生駒北」に匹敵する。前半の名称は「倭」「高山」「生駒北」を残す。後半の名称はそれにあうものを探す。

参加者：・高山と呼ばれる地域で育った者としては、ひかりが丘など新しくできた地域もあり、それらも総称して高山と呼んでいいのか判断つきかねる。

参加者：・決め方について、各自治体から3点、小学校・中学校の中から3点を提出し、市教委に判断してもらうのではどうか。

座長：・決めるのではなく、アイデアを出すのもっとだしてもらいたい。今のところ複数出そうということは決まっている。数についてはいろいろ意見が出ている。出てきたものは「生駒北」「北倭」「高山」。

参加者：・継続性という点に着目すれば、生駒北という言葉が最初に残ってくるのではないかな。

座長：(板書)「生駒北」「高山」「やまと高山」

参加者：・完全な名前にして市に提出するのか、イメージの単語を上げて提出するのか。どっちがいいのか。

座長：・それはこの会議で決めればいい。

参加者：・それならば、こういうことがらを総合して決めてもらったらいい。「生駒北」、「高山」、「やまと高山」に「小中学校」「学園」「一貫校」のどれかをつける。

参加者：・「やまと高山」なら、「学園」がいい。「生駒北」なら「小中学校」。

参加者：・学園は私学のイメージがある。また高校との区別がつかないので、小中学校がいい。

参加者：・座長はどうか。

座長：・どれがいいかは、みなさんの思い。数的には「小中学校」が多い。

参加者：・数にとらわれないということだったが、この数は、ある程度の支持があるということなので考慮しなければならないだろう。

参加者：・生駒南の一貫校はできるのか。

事務局：・今は北地区に集中している。ここの成功例を基本に次を考えて行きたい。

参加者：・将来南も一貫校になるのか。なるのなら、生駒北は北、南は南にしたらいいのではないかな。

事務局：・ここが成功することが願いなので、ここで意見をまとめてほしい。

座長：・最後は市が判断するので、資料を提供するのが準備会議の仕事。イメージ、子ども達の思いを大事にしたいが、このイメージや思いの領域からの名称はなくてもいいかな。

参加者：・もし呼称が〇〇学園になった場合、何かの大会にエントリーされて新聞等に掲載することになった場合、学校名はどういう風に表記されるのか。

事務局：・正式名称は生駒北小学校、生駒北中学校は残る。

参加者：・その場合、子どもたちが混乱することはないのか。

参加者：・大原学院の子どもたちは、いい感じだった。小中一貫校になれば子どもたちもか

わってくる。生駒北の子どもたちの様子を見ていたら、子どもたちはすぐになじんでくるであろう。そのためにいい名前をつけたい。

座長：・名前に順位をつけて提出するかどうかについてはどうか。

参加者：・順位なしがいい。

座長：・今のところ、名称が「生駒北」と「やまと高山」の2つ。後ろが「学園」「小中学校」、「一貫校」の3つ。組み合わせれば6通りとなる。

参加者：・いったん持ち帰るのは可能か。タイムリミットはあるのか。

事務局：・持ち帰ってまとめることがいいのかどうか。

参加者：・報告の時間がほしい。

事務局：・市としては、来年の4月から新しい教育を始めるという中、方向性を決めるタイミングなので、準備会議としての意見をここで決めてはどうか。

参加者：・通称名は、具体的にどういうところで使われるのか。

座長：・どの場面で使うのかといえば、基本よく使うのが通称名。国が言うには、通称名を正式名にするのかは制度化されていないが、北小、北中は残る。

事務局：・近いところで言うと、「奈良市田原小中学校」は通称名で、正式名は「奈良市立田原小学校」、「奈良市立田原中学校」になっている。玄関の看板は「奈良市田原小中学校」、卒業証書は「奈良市立田原小学校」、「奈良市立田原中学校」になっている。義務教育学校になると教員配置など、まだ細かいことはわからない。

座長：・通称名はどんなときに出てくるのか。

事務局：・ひとつにくくった方が扱いやすいということで通称名ができた。表に出てくるのは通称名で、小中を分けなければならないときは、正式名を使用する。

参加者：・「北小」、「北中」、以上に呼びやすい名称があるのか。

座長：・もう一度確認するが、今出てる意見は前半2つ、後半3つの2×3の6パターンだが、他に意見はないか。

参加者：・「一貫校」は少数なので省いてはどうか。

座長：・では、「生駒北」、「(やまと)高山」、「学園」、「小中学校」の言葉を準備会議として提案する。

## 7. 今後の予定

事務局：・現時点での内容を説明します。(仮称)生駒北小中一貫校施設整備工事については一般競争入札として8月3日に公告、9月2日に入札を行った。その結果4社の入札があり、株式会社浅沼組奈良営業所が、18億900万円で落札、審査の結果9月8日に仮契約を締結。現在条例の規定に基づき市議会に契約の締結について議案を提出している。10月8日の市議会本会議で採決を予定している。工期については議決の日からH29年3月30日までとなる。現時点の予定だが、10月16日(金)に工事説明会を開催する予定。説明会終了後工事に着手。本年度中、生駒北中学校校舎の解体撤去工事を行う。

- ・その後、小中一貫校の新築工事、太陽光発電の設置工事、外構工事を行う予定。具体的な工程については議決後に業者と調整し決定していく。なお、生駒北中学校の体育館については部活動等もあるので、体育館本体の改修工事期間は別として、工事期間中であっても基本的に使用できるように、必要な仮設設備工事を行う。今年12月中旬ぐらいまでに完了する予定。それ以降は安全面に配慮しながら、工事期間中も基本的に使用出来るようにする。

参加者：・費用18億900万、前回の会議の時には25億という金額があがっていたが、開きの概略を教えてください。

事務局：・先ほど説明したのは建設工事。これ以外に工事監理、設計、校舎リース、職員室を大きくした工事、引越し、東門用地の買収、プールと体育館の工事、エコ関係の工事、解体工事などすべてあわせて25億ぐらいになると見込んでいる。

参加者：・東門の近くの県道の用地買収にまわしてもらえないか。

事務局：・県道の部分は、県の予算。県道の整備等については県と話し合っている。

参加者：・プールの形は改良するのか、形を知りたい。

事務局：・プールの改修については来年度予算で行う予定。ひとつのプールを小学生と中学生が使用するので、水深をかえるなどの改修の対応をさせてもらう。

参加者：・学校の内部設備も決まっているのか。

事務局：・設備も決まった設計になっている。大きくは今の形で進んでいく。

参加者：・一般家庭の洋式トイレの普及に伴い、学校でも洋式トイレの導入が進んでいると聞くが、どのように進められているのか。

事務局：・すべて洋式になる。新校舎2階の低学年用トイレについては、アイランドタイプにするなど、低学年の児童が使いやすい配慮された設計になっている。

参加者：・空調設備の件、やはり空調設備をつけてほしいという保護者の声が多い。災害時の避難場所として、夏場の受入れを考えれば、普通教室に空調設備をつけてほしい。まずこの学校だけつけてもらえば、近隣の小中学校からも小さい子どもがいる家庭の災害時受入れもできると考える。

参加者：・今の話も含めて、昨日市長の方へ高山スーパースクールゾーン構想の充実についてということで協議の申し入れという形で8自治会で要望に上がった。市長と副市長と面談し三点話をさせてもらった。より安心安全な子育て環境の整理、給食センターの環境充実、北小跡地の有効活用、以上三点について話をを行った。

- ・これとは別に、トイレ、冷暖房についての話もした。冷暖房については、奈良県全域で考えていくが、難しいとのこと。あわせて、通学路のことについて、8自治会で話しているが、スクールゾーンの話で3年がたつ。活性化につながった。安全について前向きに進んでいる。一方通行が伸びてくるので、国、県、市の合同説明会も行ってもらおう。バリアフリーを含めた話し合いを行いたい。

事務局：・要望書が出たことは聞いている。

参加者：・空調設備の話。県の動きが影響するのか。市が率先して導入されることを期待

している。

座 長：・意見を出していただくことはいいこと。

## 8. その他

参加者：・先日 9 月 25 日に育友会の北小、北中の臨時委員会、育友会をひとつにするための説明会を行った。出席数は 65 名と大変多いものだった。この中で、普賢寺小学校において校区の選択制があってもいいのではという意見が出た。京田辺市の教育委員会との話し合いは行っているのか。

事務局：・選択制を考えるのは京田辺市の教育委員会の方である。相談の話が出てくれば相談に乗りながらよい方向へ進めて行きたい。普段から行っていることは、懇話会であったり、準備会議であったりした内容を懇話会便りや準備会議便りを普賢寺小学校の打田高船地区の保護者に配布し、自治会にも回覧で回し、教育委員会のほうにも配布している。またホームページには議事録等が掲載されていることも紹介している。

参加者：・隣接校選択制について徒歩で通学できる学校という制約があるが、これはこのままか。

事務局：・隣接校選択制は小学校でのみ行っている。隣接する小学校の方が距離が近いことが原則で、通学の負担をかけないため行っている。通学のことを考えるとそれが原則になる。

参加者：・中学校の縛りはこのままか。

事務局：・通学区域検討委員会で議論した中では、中学校は小学校の状況を見て検討という答申が出ている。いまのところこのままでいいとされている。将来的には検討課題になってくる可能性がある。

参加者：・前回の準備会議でもお願いしたが、特色ある学校ということで、受け入れの余地があるのであれば、特認校制を導入し、広く他校区の子どもの受け入れを募る予定はあるのか、再度、確認したい。

事務局：・現状を安定させてからと考えている。

参加者：・中 1 の子どもが小学校から減ってしまった。その理由に一貫校の先が見えなくて不安という意見があった。

参加者：・1 月 16 日が設計の最終版なのか。

事務局：・微調整はされているが、基本はその形。

参加者：・多目的室を地域も活用させてもらう形ということで、掲示スペースを確保してほしい。

事務局：・基本今の設計で入札をかけている。今後の課題とさせてほしい。

座 長：・学校がよくなっていくために、工夫を考えることが話題となっている。

参加者：・資料参照。6 月 24 日以降の進捗状況。研修、打ち合わせ、作業、会議という内容別で示している。特に打ち合わせ、作業、会議については、9 月 1 日からこ

ちらに移ったときにどのような形でスタートするのかについて担当者が何回も打ち合わせを行った。これ以外にもお互い行き来しながら、どうするのか打ち合わせを行った。

- ・研修については実際来年度からのことを見込んで、8月10日に御所の葛小学校などの先進校に行って視察を行っている。作業は引越しが中心、会議では、9月の最初に校内推進委員会をもった。今後來年度に向けてそれぞれの担当で原案を持ち寄って推進委員会を定期的に行っていく予定である。
- ・一緒に生活している中で、何か交流できないか。お互いの行き来に現在制限をかけているのは事実。これから緩和していく。単発で交流できるものを考えている。小学校の集会で中学校の生徒が発表する予定。6年生が部活動に体験参加できないか計画中である。

参加者：・10月3日、北中の体育大会の日お別れ会を行う。駐車場の準備はない。9月19日、22日、23日校舎開放を行った。3日間でのべ約350名の方に来校いただいた。その中で、卒業生の方が映像編集をおこなって、youtubeアップ中。「さよなら生駒北中学校」で検索すると見ることができる。

参加者：・桜プロジェクト実施。卒業生の保護者の方をゲストティーチャーに招き、桜の香りの授業をしていただいた。横の関係が密になってきて、みんな集まっている作業を行っている。

参加者：・12月12日にワークショップを北コミにて行う。改めて案内する。

座長：・司会を返す。

## 9. 事務連絡

事務局：・準備会議だよりは、通称名が決定してから発行する予定なので、いつもより発行が遅れる。